

2010 AUTOBACS SUPER GT ROUND8

ツインリンクもてぎ

開催日:2010年10月24日(決勝) 開催地:ツインリンクもてぎ/4.8013Km

天候:曇り コースコンディション:ドライ 観客総動員数:32000人

最終戦 攻めるもポイント獲得ならず



集中豪雨の影響でSUPER GT第7戦富士大会はキャンセルとなり、異例の2ヶ月ブランクを経て栃木県ツインリンクもてぎサーキットにて開幕した。鈴鹿700kmにおいてクラッシュノーポイントとなった#31「エヴァンゲリオンRT初号機aprカローラ」は富士スピードウェイを得意とするチームだけに第7戦の富士で大量得点を獲得しチャンピオン候補の一角に躍り出る予定であった。そして最終戦となるツインリンクもてぎでは全開に攻めたRACEを行いシリーズ上位を狙う計画であった。

しかし、その中止により残念ながら季節はすっかり秋となった最終戦。チームにとってはチャンピオンの可能性はなくなってしまったが、「有終の美」を飾るため、チーム・ドライバー共にモチベーション高く挑んだ。

公式練習 10月23日(土)9:05~10:50

世界TOPカテゴリーを経験しており、セッティング能力が高い松浦選手を柱にセットを進める計画。よって、松浦選手から走行を開始しタイヤ比較、マシンチェックを担当。積極的な周回を重ね評価を行ったが、グリップレベルの低さに苦戦。その後も大幅なセット変更を繰り返すが傾向は変わらず。狙い通りのダウンフォースとシャシバランスがグリップレベルの低さから評価できずに刻々と時間だけが過ぎて行く。その後、嵯峨選手に交代し再確認したが訴える状況は同じであった。松浦選手がセットの最中に記録したタイムが20番手となり公式練習は終了。松浦選手でもお手上げ状態であり、午後に行われるノックダウン予選に大きな不安が残る公式練習となった。

公式予選 13:05~13:50

ノックダウン予選 14:55~

いよいよ迎えた公式予選。今回はノックダウン方式の予選。マシンは朝の練習走行のデータの解析結果から更なる大幅セット変更を加えた。

まずは公式予選GT300/GT500の混走時間帯、セッション開始と同時に松浦選手が中古タイヤでアタックし嵯峨選手と交代。両者難なく基準タイムをクリアしたが、両者の評価は少しアドバンテージが出ただけというレベル。

そして迎えたノックダウン予選。更にマシンセットを変更し松浦選手→嵯峨選手→松浦選手の順番で挑む。先ずは24台中16台が生き残りをかけたSession1(以下S1,S2,S3)マシンバランスが良好なだけに#31「エヴァンゲリオンRT初号機aprカローラ」は松浦選手の渾身のアタックにもかかわらず15番手でぎりぎりS1をクリア。

続いて16台中10台が生き残りをかけたS2。NEWタイヤを投入し、嵯峨選手がアタック。松浦選手とほぼ同一タイムであったが、クリアラップがほとんど取れなかった事から15番手で敗退。予選後にデータ解析をした結果、今回リクエストしたタイヤが、コンディションに合っていない事が判明。マシンセットでは追いつかないレベルの為、明日の決勝はファーストステイントを短めとし、別チョイスのタイヤ選択の作戦を立てることとした。それ以外のマシンバランス、エンジン性能も問題は無く、この作戦に期待を込めることとした。



決勝日・フリー走行 10月24日 8:30~9:15

今にも雨が降りそうな曇り空のもと朝のウォームアップランがスタート。15番手位置からのスタートとなる#31「エヴァンゲリオンRT初号機aprカローラ」はスタートドライバーを務める嵯峨選手からコースイン。マシンの最終チェックを行うものの、現状のタイヤチョイスでは収集するデータも少ないことから松浦選手とのドライバー交代の練習などレースを見据えたPIT作業練習に時間を費やした。このセッションは22番手となったが、決勝2ステイント目に履くタイヤに自信があるためチームは余裕のスタンスであった。

決勝レース(53Laps) 14:00～

昨日の秋晴れから一転し、天候の回復も見られぬまま今にも雨が落ちてきそうな肌寒いツインリンクもてぎサーキット。最終戦を心待ちにしていた大勢のファンで埋め尽くされたメインスタンドから歓声が鳴り響くについに決勝レースがスタート。ツインリンクもてぎはオーバーテイクポイントが意外に少なく一度ポジションダウンすると上位進出は厳しくなる。最終戦は例年ヒートアップし確実にサバイバル戦となる。予期せぬアクシデントやドラマが待ち受けているのも特徴のひとつである。今回は嵯峨選手→松浦選手の順で作戦を遂行。



15番手スタートとなる31号車は後方からの追い上げとなるが、ルール上嵯峨選手の履くタイヤのアベレージスピードは厳しい事は承知。よって、嵯峨選手には、いかにポジションをキープし順位変動がないままショートステイで松浦選手にバトンを渡せるかが大きなポイントであった。

嵯峨選手はスタートでの混乱に巻き込まれないように、慎重にタイヤに熱を入れながらフォーメーションラップを走行。嵯峨選手のステイは相当厳しいマシンバランスだが、チームは託すしかない状況である。

全車がストレートに戻り、GT300は各車一斉にクリーンなスタートが切られ隊列は一気に1コーナーに流れ込む。GT500/300ともにも慎重なスタートであり大きなクラッシュも無いオープニングラップ。そのなか15番手グリッドから冷静なスタートを切った嵯峨選手は1周目から慎重にポジションキープ。そのまま数周ポジションをキープし冷静にドライビング。

その後、他車のペナルティやスピンによりポジションは少し上がりPITイン時には12位まで浮上。ルーティーンのパIT作業を素早くこなし別チヨイスのタイヤを装着し松浦選手をコースに送り出す。

松浦選手が担当した2ステイ目目のタイヤパフォーマンスは非常に高く、松浦選手はTOP集団と同一タイムで快走。他車のPITタイミングも有るが7番手までポジションUP。このまま、プッシュ続ければ上位入賞も確実と思われた時、無線から「エンジンが吹けない」との悲痛の叫び。数周、様子を見るが状況は悪化。その事から上位入賞を捨てやむなくPITイン。ECUのトラブルで燃圧低下が原因と判明。その後、メカニックの敏速な交換作業により再度コースに送り出す事ができたが、作業に2周費やしたことから完全に戦線離脱。その後もGT300のTOPクラスと遜色ないタイムで松浦選手は快走するも完走したレースの中では今期ワーストの19位。今シーズンは、ドライバーランキング・チームランキングともに10位で締めくくることがなった。



嵯峨宏紀選手

「不運なトラブルから決勝前フリー走行ができず、タイヤの温度が上がっていない状態でのレース序盤では苦戦してしまいポジションを大きく落としてしまいました。今期最後のレースということで、前回の鈴鹿戦の雪辱を含め良いレースにしたかったのですが、不完全燃焼なレースになってしまい残念です。ただ、今期一年間でのマシンのポテンシャルは飛躍的に向上したのは明らかであり、来期以降へ向けての期待の持てる一年を過ごせたのではないかと思います。」



松浦孝亮選手

「シリーズ最終戦ということでかなり気合を入れて行ったのですが、今回持ち込んだ状態が、セットアップ・タイヤ含め少し自分達の思ったものと違っていました。決勝までうまくペースを掴めずにいましたが、決勝レースにはセット変更して望んだ結果、そのセットはすごく良くレースのペースは悪くなかった。ですが、ポンプこわれてピットに入ることになり、周回遅れになってしまったので残念です。」



表彰台は菅生1回だけになってしまいましたが、“31号車”としては、これまでよりも確実に早くなった一年だったのではないかと思います。1年間皆様応援ありがとうございました。」

apr代表 金曾 裕人

「今シーズンはチャンピオンを狙える布陣として嵯峨選手、松浦選手のコンビで挑んだ。全てが噛み合ったときのパフォーマンスは高く、随所に速さを見せつけたが、クラッシュや今回の様なトラブルで結果に繋がらない事が多いシーズンであった。しかし確実な進歩が見られ、強豪ひしめくGT300でシリーズ10位は昨年よりも上々。来期に関して期待値の大きい進歩であったと言える。しかしもっと高いパフォーマンスをご期待くださった皆様には申し訳なく思うと共に更なる発展をお約束致します。一年間ご声援ありがとうございました。」

本リリースに関するお問合せ



株式会社エー・ピー・アール
〒243-0021 神奈川県厚木市岡田3111
TEL 046-226-5276 046-228-7636
(担当: 赤城 akagi@apr-jp.com)



Panasonic

TOYOTA

Racing Development
TRD

ADVAN

MAGICAL CARBON
HASEPRO

TOTAL

AKG
Acoustic group



DOUBLEHEAD
Solid Safety Apparel

BugZEES

RAYSE

RECARO

BILION

ORHURA
CLUTCH

CKS

Arai

BELT OF

NGK
SPARK PLUGS

SEV



BOSCH

EMU
RACING PADS

リボンシモン